



素材研究
(海外)

レフカラ(キプロス)

レフカラ村のレースづくりは無形文化遺産 商品価値高いキプロスの多様な魅力に注目を



500年以上にわたって母から娘へと受け継がれてきたレフカラレース



村の穏やかな暮らしぶりを感じさせる家々に飾られた鉢植え



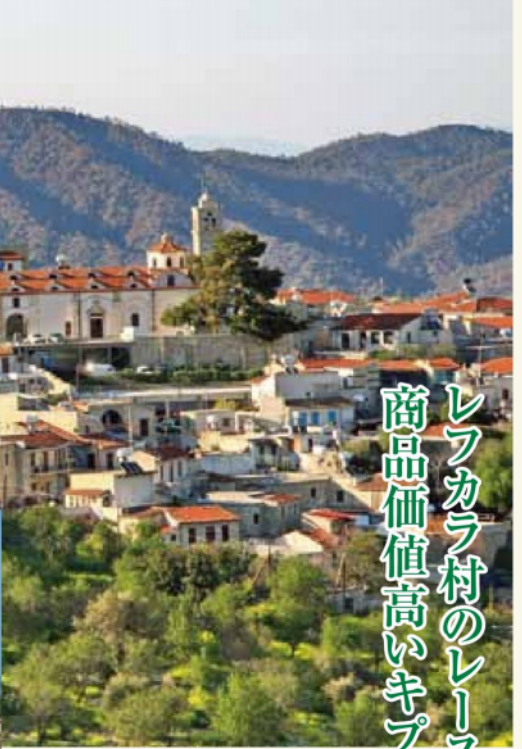
アフロディーテ誕生伝説の残るキプロス西部の海岸



懐かしさを感じさせる券囲気も漂うレフカラの路地裏



古代の町・クリオンの守護神として祀られていたアポロン神殿跡



海を見下ろす斜面で瀟洒な券囲気を醸し出すレフカラ村

地中海に浮かぶ島として3番目に大きいキプロスの歴史は、約1万年前まで遡ります。ギリシャやローマといった地中海文明だけでなく、イスラムの影響なども受けてきたことから、その多様な文化が大きな魅力のキプロス。JATAによる「ヨーロッパの美しい村30選」に名前を連ねたレフカラは、世代から世代へと継承されてきたレフカラレースでも注目を集めています。

500年以上も続く村の伝統手芸

レフカラ村は、大型のリゾートホテルが立ち並ぶ海岸沿いの街から離れた標高約750メートルの中山間地域にあります。

石畳の小道を挟んで石造りの家並みが続き、外壁に蔦が絡まる路地裏にはどこか懐かしさを感じる券囲気も漂います。軒先に並ぶ鉢植えも、人々の穏やかな暮らしぶりを感じさせるようです。

母から娘へと受け継がれ、500年以上も続いてきた村の伝統手芸であるレフカラレースは、そうした日常の中で育まれてきました。

海を見下ろす斜面にあるレフカラ村は、15〜16世紀にこの地域を支配していたヴェネチアの人々が保養地として過ごした歴史を持ちます。村の女性たちがヴェネチア

貴族の婦人たちと手芸を楽しみながら、ヴェネチアの技法やデザインを取り入れて美しく繊細なレースづくりに励んだのが、レフカラレースの起源となりました。

島内各所に奥深い魅力に溢れる素材

『最後の晩餐』で知られるレオナルド・ダ・ヴィンチもレフカラ村を訪れ、ミラノ大聖堂の祭壇布としてレフカラレースの大きなテーブルクロスを持ち帰り、作品にも描かれることになったと伝えられます。

古代ギリシャやビザンチンを想起させる菱形とジグザグを組み合わせた幾何学模様や十字架をはじめ、村で見られる草花や虫、川など、多様なデザインも特徴のレフカラレース。生活を彩るインテリアとしてだけでなく、地域の産業としても継承されて、村のレースづくりは国を代表する文化にまで高められ、2009年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。

30年以上にわたってキプロスの観光情報を発信してきたキプロスインフォメーションサービスの志村暁子さんは、「ギリシャ神話の愛と美の女神アフロディーテが誕生した海岸などの伝説や、世界遺産の古代遺跡さらには壁画聖堂群など、キプロスには奥深い魅力に溢れる素材が島内各所に埋もれています」と説明。レフカラに象徴される、地域の隠れた宝探しを通じて旅行会社による掘り起こしと商品化に期待を示しています。